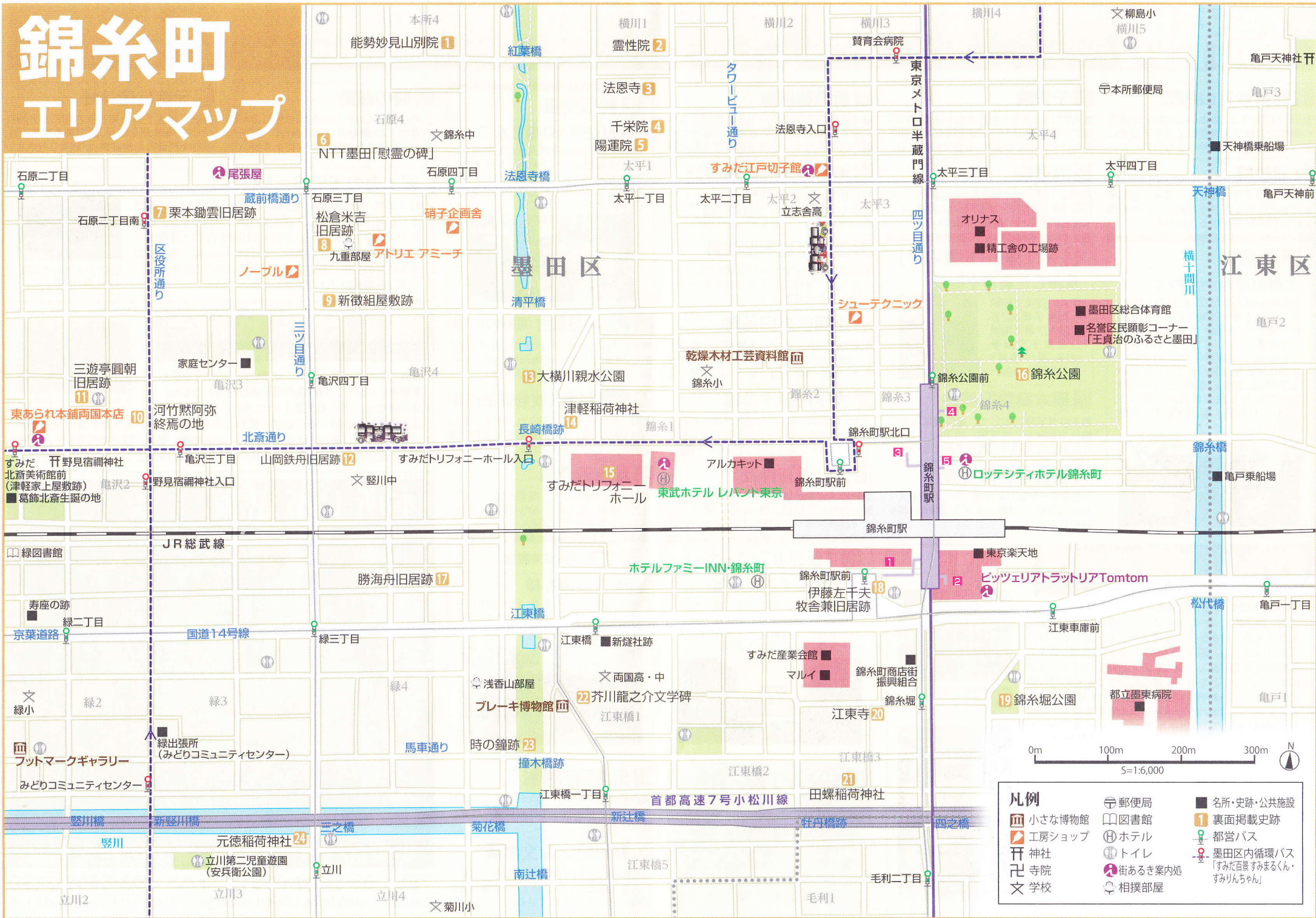


錦糸町 エリアマップ



凡例

	小さな博物館		郵便局		名所・史跡・公共施設
	工房ショップ		ホテル		裏面掲載史跡
	神社		トイレ		都営バス
	寺院		墨田区内循環バス 「すみだ百景すみまらくん・すみりんちゃん」		街あるき案内
	学校		相撲部屋		

錦糸町

1 能勢妙見山別院

安永3(1774)年、旗本の能勢頼次が故郷の能勢宗の妙見大菩薩の分体を下屋敷に祀ったのが始まり。勝小吉も信心した。

2 霊性院

境内の延命子育て蔵尊は、井戸を掘削中に清水とともに掘り出され、この水を含み願えば病が快癒するとされた。

3 法恩寺

太田道灌ゆかりの寺

江戸城築城にあたり、長禄2(1458)年、太田道灌が丑寅の方角である江戸平河(千代田区)に建立したことに始まるとされる。道灌の孫の資高(すけたか)が、父資康(すけやす)の追善のために堂舎を造営、寺名を本住院から平河山法恩寺に改めた。江戸開府後はやむなく数回の移転を重ねて、元禄元(1688)年、現在地に寺地を定めた。



4 千栄院

明応7(1498)年に創建された法恩寺の塔頭で、痰病守護の道晴様と呼ばれる神を祀り、「たんぼとけ霊場」として知られる。

5 陽運院

長享元(1487)年に開創された法恩寺の塔頭。眼病守護の護符を授ける「めぼし霊場」として有名。俳人・水間沾徳の墓がある。

6 NTT 墨田「慰霊の碑」

殉職した職員を慰霊

関東大震災で殉職した男子職員2名、東京大空襲で殉職した女子交換手28名、男子職員3名を慰霊する碑。



7 栗本鋤雲旧居跡

幕末は外国奉行として、維新後は有力新聞社の主筆として活躍。明治12(1879)年には本所区初代区議会議長となった。

8 松倉米吉旧居跡

労働をテーマにした作風で知られる歌人・松倉米吉が、23歳で没する最後の2年を暮らした家。

墨田区ゆかりの人・王貞治

すみだミニ情報

昭和15(1940)年、墨田区八広で生まれ育った王貞治氏。甲子園でノーヒットノーランを達成し、読売巨人軍へ入団。一本足打法を編みだして以来、ホームランを打ち続ける。昭和52(1977)年9月3日に756本の世界新記録を達成し、868本まで記録を伸ばし、世界のホームラン王となる。長嶋茂雄選手とともにON砲と呼ばれて、一時代を築き、引退後は巨人軍の監督、ダイエー・ソフトバンクホークスの監督を歴任。平成18(2006)年の第1回ワールドベースボール・クラシックでも監督として采配をとり、日本を初代王者に導いた。平成22(2010)年、墨田区の名誉区民となる。

王貞治顕彰コーナー

錦糸公園内にある墨田区総合体育館の2階にある。王貞治氏ゆかりの品々が約30点常設展示され、入場無料で自由に見学することができる。

隅田公園少年野球場

昭和24(1949)年に造られた日本初の少年野球場。こちらは向島エリアにある。墨田区少年野球連盟では、この球場で毎年「王貞治杯」を開催している。



本所中学校の前にある王貞治記念碑



9 新徴組屋敷跡

幕末に幕府の命で江戸市中の取り締まりにあたった浪士隊「新徴組」の組屋敷が置かれた場所で、小笠原加賀守の屋敷跡。

10 河竹黙阿弥終焉の地

狂言作家。明治20(1887)年、72歳で転居し、病没するまで過ごした。「都鳥廓白浪」を始め、多くの名作を残した。

11 三遊亭圓朝旧居跡

落語家の圓朝が明治9(1876)年から11年暮らした場所。この地で塩原太助の一代記を完成させた。

12 山岡鉄舟旧居跡

幕末の剣術家。義兄の高橋泥舟、莫逆の友、勝海舟と並び「幕末の三舟」と呼ばれる。維新後は明治天皇の侍従を務めた。

13 大横川親水公園

万治3(1660)年、本所開拓で開削された大横川は汚染などから大半が埋め立てられ、公園となった。毎年2回、ガラス市を開催。

14 津軽稲荷神社

津軽家中屋敷の跡。明治期には糧秣廠が置かれたが、稲荷は残された。震災、戦災で焼失するも昭和35(1960)年に再建。

15 すみだトリフォニーホール

音楽都市すみだの拠点

平成9(1997)年の開館。大小のホールとパイプオルガンを備えたコンサートホール。新日本フィルハーモニー交響楽団の活動本拠地。



知得メモ お菓子の街 錦糸町

JR総武線錦糸町駅の北側付近には、関東大震災後の区画整理で千代田区神田付近の製菓関係者が集団移転し、菓子問屋が軒を連ねた。今では数件を残すのみとなったが、充実した品揃えの駄菓子屋が健在。人気スポットとして親しまれている。

散策は、駅南口の伊藤左千夫旧居跡からスタート。次に錦糸堀公園。そして大横川親水公園を、寺社などをめぐりつつ、北へと歩こう!

16 錦糸公園

戦後は憩いの場となる

明治期に帝国陸軍が兵士の食料を保管する糧秣廠(りょうまっしょう)が置かれた地で、関東大震災後の帝都復興事業により整備された。開園は昭和3(1928)年。



17 勝海舟旧居跡(勝海舟播磨の地)

旗本の岡野孫一郎の屋敷跡。海舟は9歳から24歳までをこの地所内で過ごした。孫一郎の養女・たまは海舟の妻。

18 伊藤左千夫牧舎兼旧居跡

小説「野菊の墓」で知られる歌人。明治22(1889)年、ここに牧場を開き搾乳業を開始。ゆとりが生まれ、文学に傾倒。

19 錦糸堀公園

本所七不思議の中で、落語の題材として人気があり、有名になった「置いてけ堀」があったとされる場所の一つ。

20 江東寺(江東観音)

錦糸町の観音様

東京楽天地の開発により、昭和15(1940)年、群馬県伊香保町の水沢観音の別院として創建された。



21 田螺稲荷神社

元の名は田中稲荷。大火の際、社の池からタニシがはい出して社殿に張り付き、類焼から守ったという。

22 芥川龍之介文学碑

出身地の敷地内の碑には、龍之介が愛した大川(隅田川)についての19歳の頃の随想の一部が刻まれている。

23 時の鐘跡

江戸時代、人々に時刻を知らせたのが時の鐘で、本所横川にも置かれた。堅川と横川が交差する場所で回りによく響いた。

24 元徳稲荷神社

神田の名主である河村徳右衛門が元禄6(1693)年本所に転居、屋敷神も移す。「元徳右衛門邸のお稻荷様」が縮まり社名に。

精工舎の工場跡

錦糸公園の北側には、明治26(1893)年に現在の石原1丁目付近より移転した精工舎(現在の櫛セイコーホールディングス)があり、平成9(1997)年の工場閉鎖まで数多くの時計が作られた。セイコーの名は、精巧で精密な時計の生産に成功する工場、「精工舎」由来。現在、跡地は商業施設「オリナス」となっている。



昭和31(1956)年の精工舎と錦糸公園

新燧社跡(しんすいしゃあと)

すみだミニ情報

日本で初めて赤燧(せきりん)を用いた「安全マッチ」を製造した会社。創始者の清水誠は明治3(1870)年に渡仏し、きわめて難しいとされるマッチの製法を修得。帰国後さらに研究を重ね、同9(1876)年に大久保利通の後援を受けて本所柳原(現在の両国高校付近)で本格的に製造・販売を開始した。両国高校の敷地内には「国産マッチ発祥の地」の記念碑が建てられている。



当時のパッケージデザイン

本所七不思議

江戸時代の本所を舞台にした怪奇談

いくつも生まれた江戸の七不思議。中でも最も広く知られたのが本所七不思議で、草紙や浮世絵、落語などがこぞって題材とし、妖怪話や怪奇談が大好きな江戸っ子の人気を集めた。

本所七不思議としての体裁が整ったのは、寛政年間(1789~1801)と考えられている。ただし内容や構成が異なる伝承もあり、不思議の数は十ほどになる。

どの伝承にも必ず入っている不思議が、堀で釣りをしていると、どこからともなく「おいてけー、おいてけー」と声がかき、魚籠(びく)の中の魚が1匹もいなくなるという「置いてけ堀」と、片側にしか葉がつかない芦の由来を語る「片葉の葦(あし)」の二つ。このほか、「狸囃子(たぬきばやし)」「足洗い屋敷」「送り提灯(おようちん)」「消えずの行灯(あんどん)」「送り拍子木(おようしき)」「落葉なき権(しい)」「津軽の太鼓」「入江町の時無し」などがある。

「本所七不思議之内 置け堀」(上)、「本所七不思議之内 片葉ノ芦」(下) / 岡多國輝



墨田区・一般社団法人 墨田区観光協会

TEL : 03-5608-6951 FAX : 03-5608-7130
Email : sumida@visit-sumida.jp http://visit-sumida.jp/

両国

江戸時代、川開きの花火や回向院の相撲でも知られ、江戸随一の賑わいを見せた両国。吉良邸跡や北斎、海舟ら名だたる人物の足跡など、歴史のエピソードがそこかしこに!

1 村松志保子の産婆学校跡

沼田藩の侍医の家に生まれた村松志保子が旧藩主の協力を得、明治21(1888)年、日本初の産婆学校「安生堂産婆学校」を創立。

2 横網町公園

園内の東京都慰霊堂には震災や戦災による犠牲者が祀られ、毎年、春と秋に大法要が営まれる。

3 旧安田庭園

元禄年間(1688~1704)に造られた湖入式回遊庭園。園主は安田善次郎を最後に東京市に寄付され、現在は区立公園に。

4 御蔵橋跡

幕府の資材置き場、御竹蔵に隅田川から引き込んだ堀に渡した橋跡。江戸東京博物館、横網町公園、国技館は、この御竹蔵跡地にある。

5 舟橋聖一誕生の地

明治37(1904)年、現在の横網で生まれた。堀辰雄とは帝大の同級生。誕生の地には、代表作「花の生涯」の碑が立つ。

6 百本杭の跡

土手の保護のため川に多数打ち込んだ杭のことで、両国界隈で育った人にとっての原風景であった。

7 国技館

変転の歴史を刻む大相撲の殿堂

年6回の大相撲本場所のうち3回が開かれる。明治42(1909)年、回向院の隣に開場したが、失火、震災、戦災など度重なる悲劇に見舞われる。東京大空襲で焼失し、戦後、再建されたが、進駐軍に接収された。相撲興行の拠点は蔵前に移ったが、昭和59(1984)年、銅板葺きの現在の建物が完成、大相撲は両国に戻った。



8 江戸東京博物館

驚きの復元模型が並ぶ

実物大の日本橋、大名屋敷や長屋などの復元模型をはじめ、豊富な実物資料で江戸・東京の歴史と文化を紹介するミュージアム。



9 徳山稲荷神社

本所築地奉行の屋敷神

万治3(1660)年から本所・深川の開発事業を指揮した本所築地奉行・徳山五兵衛の屋敷神がもとなっている。



10 NTT 墨田「慰霊の碑」

関東大震災で殉職した男子職員2名、東京大空襲で殉職した女子交換手28名、男子職員3名を慰霊する碑。

11 栗本鋤雲旧居跡

幕末は外国奉行として、維新後は有力新聞社の主筆として活躍。明治12(1879)年には本所区初代区議会議長となった。

12 松倉米吉旧居跡

労働をテーマにした作風で知られる歌人・松倉米吉が、23歳で没する最後の2年を暮らした家。

13 新徴組屋敷跡

幕末に幕府の命で江戸市中の取り締まりにあたった浪士隊「新徴組」の組屋敷が置かれた場所で、小笠原加賀守の屋敷跡。

14 岡内重俊旧居跡

坂本龍馬の海援隊で秘書役を務めた重俊は明治政府に出仕、ここに居を構えた。政府でも活躍し、男爵となる。

15 すみだ北斎美術館

葛飾北斎の偉業を発信

世界的な芸術家として名高い葛飾北斎(1760~1849)は、本所割下水(現在の墨田区亀沢周辺)生まれ。生涯のほとんどを区内で過ごした。その北斎の偉業を発信する場として、平成28年11月22日開館。



16 河竹黙阿弥終焉の地

狂言作家。明治20(1887)年、72歳で転居し、病没するまで過ごした。「都鳥廓白浪」を始め、多くの名作を残した。

17 三遊亭圓朝旧居跡

落語家の圓朝が明治9(1876)年から11年暮らした場所。この地で塩原太助の一代記を完成させた。

18 江川太郎左衛門屋敷跡

三十六代目江川太郎左衛門英龍の江戸屋敷跡。ここに西洋砲術塾を開き、佐久間象山、榎本武揚など俊英たちが学んだ。

19 津軽家上屋敷跡

陸奥弘前藩の津軽家の上屋敷跡。本所に過ぎたるものとされ、広大な屋敷内にあった火の見櫓は本所七不思議の一つ。

20 野見宿禰神社

相撲の神様とされている野見宿禰が祀られている。境内には、歴代横綱の名前を刻んだ石碑が立つ。

21 山岡鉄舟旧居跡

幕末の剣術家。義兄の高橋泥舟、師の勝海舟と並び「幕末の三舟」と呼ばれる。維新後は明治天皇の侍従を務めた。

22 斎藤緑雨旧居跡

正直正太夫と号し、舌鋒鋭い批評家としても知られた小説家。晩年の1年を過ごし、36年の短い生涯を終えた場所。

23 芥川龍之介生育の地

生後間もなく母が病となり、両国にある母の実家で18歳までを過ごした。両国や隅田川への深い愛情は作品にもうかがえる。

24 榛稲荷神社

この辺りには、榛馬場と呼ばれる武士の稽古場があり、その傍らに祀られているのが榛稲荷神社。

25 大高源五の句碑

赤穂浪士四十七士の一人、大高源五が詠んだといわれる「日乃恩や忽ちかく厚氷」を刻んだ碑。両国橋東詰にある。

26 旧両国橋・広小路跡

明暦の大火を教訓に寛文元(1661)年、両国橋を架橋、橋詰めに設けた火除け地が江戸随一の繁華街広小路となる。

27 与兵衛鮫発祥の地

江戸前にぎり寿司は、文政年間(1818~30)に両国で小泉与兵衛により生み出された。店舗「華屋」は昭和7(1932)年まで続いた。

28 回向院

明暦の大火による犠牲者を供養

明暦3(1657)年、10万人もの命を奪った振袖火事による身元不明者を合葬、供養するため建立。後年は火災や震災、洪水による無縁仏も葬られるようになる。



29 吉良邸跡・本所松坂町公園

赤穂浪士討ち入りの舞台現場

四十七士が討ち入りした吉良邸の一角が、現在も公園として残されている。上野介の首を洗ったという井戸や上野介の座像などがある。



相撲とちゃんこの街

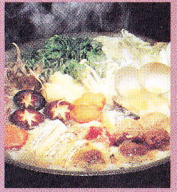
江戸の小屋がけから今日の新国技館へ

江戸の相撲興行が回向院を常設場所とするのは天保4(1833)年。開催は春と秋で、小屋がけだった。次第に両国の代名詞となっていった大相撲の最初の殿堂は、明治42(1909)年に造られた旧国技館だった。そして戦後の蔵前国技館を経て、昭和59(1984)年、現在の新国技館が完成。最新の技術を結集した造りで、相撲に関わる資料をそろえた相撲博物館(右中写真)が併設され、貴重な展示物が楽しめる。



本場で味わう、絶品ちゃんこ

大相撲とくればちゃんこ! ちゃんことは、鍋に魚介や肉、野菜などをざく切りにして入れ、水炊き風にいただく鍋料理を指し、明治時代後期には力士の定番食に。両国の街には、昭和12(1937)年創業の「ちゃんこ川崎」をはじめとして、本格的な専門店が10店舗以上並ぶ。店ごとにこだわりぬいた味は、だれもが文句なく舌鼓を打つはずだ。誘い合わせて、ぜひ、両国ちゃんこ探訪へ!



30 芥川龍之介文学碑

区内に二つある文学碑のうちの一つ。児童文学「杜子春」の一節が刻まれている。

31 勝海舟生誕の地

勝海舟の父、小吉の実家である男谷家のあった場所に海舟の生誕の地の碑とその由来の碑文が立つ。

32 尺振八の共立学舎跡

振八は中濱萬次郎から英語を学び、通訳として遣欧、遣米使節団に随行。帰国後、この地に英学教育の私塾を開いた。

33 本因坊屋敷跡

織田信長、豊臣秀吉、徳川家康に仕えた本因坊算砂を開祖とする囲碁の名門、本因坊家の屋敷跡。

34 塩原橋

橋の名称は、江戸期に新炭商で財をなした商人、塩原太助の炭屋が橋の下流にあったことに由来する。

35 江島杉山神社

杉山和一が五代將軍綱吉に鍼治療を施し、土地を賜った際、江ノ島弁財天を勧請して開いた神社。和一は盲人の最上級官職である検校となり、盲人教育にも努めた。

36 寿座(寿劇場)の跡

明治31(1898)年に開座した歌舞伎劇場で、界隈の人に親しまれたが、昭和20(1945)年に閉館し、東京大空襲で焼失した。

37 勝海舟旧居跡(勝海舟揺籃の地)

旗本の岡野孫一郎の屋敷跡。海舟は9歳から24歳までをこの地所内で過ごした。孫一郎の養女・たみは海舟の妻。

38 小林一茶居住の地

江戸を拠点に旅を続けた俳人の小林一茶が初めて居を定めた場所。文化元(1804)年から5年ほど暮らした。

39 元徳稲荷神社

神田の名主である河村徳右衛門が元禄6(1693)年本所に転居、屋敷神も移す。「元徳右衛門邸のお稲荷様」が縮まり社名に。

墨田区・一般社団法人 墨田区観光協会

TEL : 03-5608-6951 FAX : 03-5608-7130

Email : sumida@visit-sumida.jp http://visit-sumida.jp/